

大人も子どももみんな遊びましょう！ 子どもたちと遊ぶための手引き



「さわやか福祉財団」は、大人も子どもも互いに尊重しあい、みんながいきいきと暮らせるふれあい社会を目指しています。

学校・地域社会・家庭などの場で大人たちが力を合わせ、子どもたちを健やかに育てていくことによって、大人たち自身も「人間力」を高めていきます。

私たちは、平成16年度から18年度までの3年間「さわやか子ども広場」を展開し、地域の方々や普段子どもたちと接する機会の少ない父親たちが「遊び」を通じて子どもたちと交流する場を提供してきました。

子どもたちは地域の方たちと交流する中で社会性が育ち、自主性が芽生えてきました。また、ふれあいの中からお互いを尊重する態度や助け合う心が深まりました。更に、お父さんたちも地域との密接な関係を築くことができたのです。

「子ども広場」の活動を通して、私たちは子どもたちの自主性や社会性、共助の精神を育てながら、「みんなで遊ぶ」ための留意点や具体的な活動の方法を得ることができました。それを「手引き」としてご紹介します。

コーディネーターやスタッフのみなさんへの6つのポイント

なるべく多くのいろいろな方に参加していただくためのポイント

- ① **あらゆる機会・媒体を使って地域の方に活動を知っていただきましょう。**
市町村の広報・自治会町内会の会報・学校だよりなど、多くの方の目に触れる媒体をつかって活動を紹介し、まずはその楽しさを知っていただきましょう。
- ② **参加者や協力者の輪を広げましょう。**
PTA・子ども会・自治会町内会・趣味の会などいろいろなネットワークを使って、参加者や協力者の輪を広げましょう。協力していただける方には、なるべく具体的なお協力をお願いします。地域の中にはいろいろな特技や才能を持った方がいらっしゃいます。多くの方が参加・協力してくださることで、「ふれあいの輪」が広がり、多様な体験ができます。
- ③ **大人の参加者の方に「遊びの広場」を手伝ってもらいましょう。**
子どもを連れて参加してくださった大人の方にも、活動のお手伝いをしていただきましょう。指導者の方だけでなく、大人が子どもと一緒に活動に関わることで子どもとのコミュニケーションも深まります。連帯感を持って活動していただきましょう。
- ④ **活動メニューはバラエティ豊かなものにし、子どもを主体に考え、子どもの主体性を育むようにしましょう。**
参加者の中心は、子どもです。子どもたちが積極的に取り組めるように子どもたちの意見を取り入れたメニューを工夫しましょう。また、年齢によって興味関心やできることが異なりますので、異年齢の子どもたちが参加できるような多様なメニュー作りが必要です。高学年の子どもたちには役割を持たせ、企画から参加してもらおう主体的な取り組みをめざしましょう。
- ⑤ **参加者・協力者の意欲を尊重しましょう。**
活動を重ねるうちに、参加者や協力者からさまざまな意見や要望が出されるようになると思います。そのような人を、企画や運営のメンバーとして協力を仰ぎましょう。また、見学者の方も積極的に受け入れ、活動の参加や協力をお願いしましょう。
- ⑥ **参加者に相談されたことなどについては、秘密を守りましょう。**
子どもたちや保護者の方から、相談されたり打ち明けられたりした個人情報や互いの信頼関係に基づくものです。慎重な配慮をしつつ、場合によっては関係者に相談しましょう。

保護者のみなさんへの4つのポイント

参加のポイントはまず親子で楽しむこと、保護者の方、特にお父さんの参加が大切です。

- ① **まずは、子どもたちの様子を見に行きましょう。**
子どもたちは大人と遊ぶのが大好きです。子どもと一緒に地域や学校の行事やイベントに参加しましょう。仲間たちと生き生きと活動する子どもの様子を見ることで新たな発見があるでしょう。
- ② **仕事で忙しいお父さんやお母さんも、子どもたちとの遊びを楽しみましょう。**
お父さんたちが子どもの教育に関わることが大切です。特に身構えなくても一緒に遊ぶことから始めてみましょう。お母さんからも積極的にお父さんを誘ってみましょう。お父さんが子どもと向き合って真剣に活動する姿は子どもにとってお手本であり、誇りになります。
- ③ **子どもたちや地域の方々と知り合いになりましょう。**
子どもたちや地域の方々と挨拶をし、顔見知りになりましょう。自分の子どもが育つ地域の仲間たちや子どもを育てる地域の方々と知り合いになることで、連帯感も生まれ、安心につながります。
- ④ **お手伝いから始めましょう。**
まずはお手伝いから始めてください。そして、自分は何ができるかをコーディネーターやスタッフに相談しながら、自分の役割を見つけてください。

地域のみなさんへの4つのポイント

子どもたちの健全な育ちに、地域の方のお力を貸していただくことが大切です。

① あなたの特技・知識・趣味を活かしてください。

地域の方々の特技や知識を子どもたちのために役立てましょう。子どもたちは好奇心と憧れをもって地域の大人の方からいろいろなことを学び、ともに遊ぼうとするでしょう。また、お友だちや趣味の仲間も誘って、ふれあいの輪を大きく広げていきましょう。

地域の中高校生や、大学生の協力も得ることで活動の幅が広がり、子どもたちの意欲も高まることでしょう。

② 子どもたちの話をよく聞いて、お話をしましょう。

活動の中で何かを作り上げるということはとても大切ですが、活動の中でゆっくり時間をかけて子どもたちの話に耳を傾け、お話しをしてください。子どもたちにとって自分の話をじっくりと聞いてくれる大人の存在が大切です。ゆとりをもって根気強く子どもたちと接してください。

③ 地域の中で、見学や体験のできる場所やチャンスを提供して下さい。

地域社会は「生きた教材」の宝庫です。商店街や町の工場・田んぼや畑や公園や森など子どもが社会体験や自然体験をする場になります。また、地域の伝統行事やお祭りなどに子どもたちが主体的に関わることができるような場面を提供してください。

④ 教材の提供や資金援助をお願いします。

「遊び」のために活用できる教材や道具または情報などをご提供ください。お借りできるものがありましたらご連絡ください。また、資金援助のお申し出は、地域で子どもたちを育てる、という目的のために大切にさせていただきます。

学校の先生方への2つのポイント

保護者・地域・学校が協力し合うことで「遊びの広場」は活性化します。

① 「遊びの広場」のために学校を開放してください。

子どもたちと地域の方々との交流の場として、「学校」は地域の中心です。学校の開放にあたって、地域と協力してルール作りもしてください。

② 校長先生や先生方からの応援や声かけをお願いします。

子どもたちは、校長先生や先生方からの応援に大変励まされます。地域の方が学校に目を向けてくれるようになり、総合的な学習の時間やその他、学校のさまざまな教育活動に日常的に協力していただけるような関係を築くこともできます。



II

「遊びの広場」に出かけたら。

子どもと楽しく遊んでください。そして、子どもの自主性を育むことをめざしてサポートをしてください。

- ① **「遊びの広場」の目的は、子どもとのふれあいです。**
活動の成果や勝敗などにこだわらず、子どもとふれあって活動を楽しんでください。活動の過程を楽しんでください。
- ② **子どもたちに企画から参加を呼びかけ、自主性を育んでいきましょう。**
活動を重ねる中で、子どもたち自身が企画に対する意見や主張をするようになってきます。子どもたちは主体的に活動にかかわることで活動に対する意欲や自主性がでてきます。さらに、責任感や自信や達成感も生じてきます。「遊び」を創造し、企画し実行することが子どもたちの大きな「学び」につながります。
- ③ **子どもが取り組んでいる時は、静かに見守り、手伝いやアドバイスは最小限にしましょう。**
子どもが自分で考える時間を尊重して、結果や成果を急かさないようにしましょう。活動前のアドバイスや説明は丁寧にし、活動をはじめてからは自主性を大切にして静かに見守りましょう。失敗も大事な体験です。一緒に考え再チャレンジを応援しましょう。
- ④ **子どもたちの話や意見を積極的に聞きましょう。**
子どもの目線に立ち、子どもの話に耳を傾けましょう。子どもたちの発見や気づき、または自己主張を丁寧に聞いてあげましょう。尊重すべき意見などは取り上げて参考にしましょう。
- ⑤ **よいことは、その場でほめましょう。**
子どもたちは、大人から認められたいと思っています。どんな小さなことでもがんばったことやお手伝いしてくれた時など、よいと思った場面では時間を空けずその場でほめましょう。
- ⑥ **役割や責任を持たせて、達成感を味わうことができるようにしましょう。**
それぞれの子どもの意見を尊重しつつ、年齢などに適した役割や責任を持たせましょう。役割や責任を果たすことで達成感も生まれます。それを励まし応援しサポートするのが大人の役割と言えるでしょう。



Ⅲ

さあ、みんなで遊みましょう！

「遊びの広場」の活動例

（「さわやか子ども広場」で実際に行われた活動例です。）

- ① **もの作り** …… ペットボトルロケット・竹細工・木工・凧づくり・絵手紙・クラフト・陶芸など
- ② **自然体験** …… ビオトープ・観測会・キャンプ&野外炊飯・^{注1}田植え・クリーンナップ作戦・昆虫採集など
- ③ **屋外遊び・
^{注2}スポーツ** …… 一輪車・ドッジボール・卓球・グランドゴルフ・綱引き・体力測定・各種ニュースポーツ・スタンプラリー・縄跳び・マリンスポーツ・凧揚げ・^{注3}下駄飛ばしなど
- ④ **屋内遊び** …… カルタ取り・囲碁将棋・オセロ・ベーゴマ・読み聞かせ・クリスマス会など
- ⑤ **学び** …… 伝承遊び・パソコン・座禅&お坊さんの話・英語遊び&国際交流・実験教室・習字など
- ⑥ **食べ物づくり** …… 餅つき・蕎麦うち・サバイバル料理・お菓子作り・郷土料理・流しソーメンなど
- ⑦ **クリーン作戦** …… 公園、地域の道路、河川や海岸の除草や清掃・ゴミの分別回収・リサイクル活動など
- ⑧ **地域体験** …… 伝統芸能・各種伝承楽器・職業体験・バザー出店・地域探訪（史跡・山林・施設）など
- ⑨ **安全・防災** …… 安全マップづくり・子ども110番の家スタンプラリー・防災訓練・自転車教室など
- ⑩^{注4} **交流・連携** …… 老人ホーム・独居老人宅訪問・養護学校・中学校・高校・大学・商店街や企業など

いろいろな世代の参加者が、取り組みやすい、その地域の特性を生かした活動を工夫してください。例えば、雪国であれば、スノーキャンドルづくりや雪灯籠づくり・雪かき隊。山が近いところでは、山の散策や山のクリーン作戦。海の近くではカヌー体験や海洋体験・海岸クリーン作戦や漂着物調べなどの活動を工夫しているケースもあります。また、地域の助け合い活動を進めるための「時間通貨」を取り入れてもいいでしょう。

*注1 稲の苗床づくりから収穫までの全過程を体験し、収穫まで続けていく活動もあります。

*注2 スポーツは技能の上達をめざすのではなく、誰でもが参加できるような工夫をして取り組みましょう。例えば、ドッジボールをボールの代わりにソフトディスクを使用するドッジビー、風船を使ったバルーンバレーボールなど、いわゆるニュースポーツを取り入れるなどの工夫することが大切です。

*注3 地域の伝統的な「下駄飛ばし」の行事に参加したり、「下駄」を「靴」に変えて工夫するなどという「チャレンジゲーム」などもあります。そのような工夫の場面にこそ子どものアイデアや意見を企画に取り入れましょう。

*注4 地域のいろいろな団体と連携した活動の中で、子どもたちが養護学校の文化祭で「子どものお店」出店を企画計画し、自分たちで運営した活動などもありました。地域の中学校・高校・大学の協力を得て活動の幅を広げている団体もあります。

遊びを通じたふれあいが、子どもも大人も成長させてくれる。

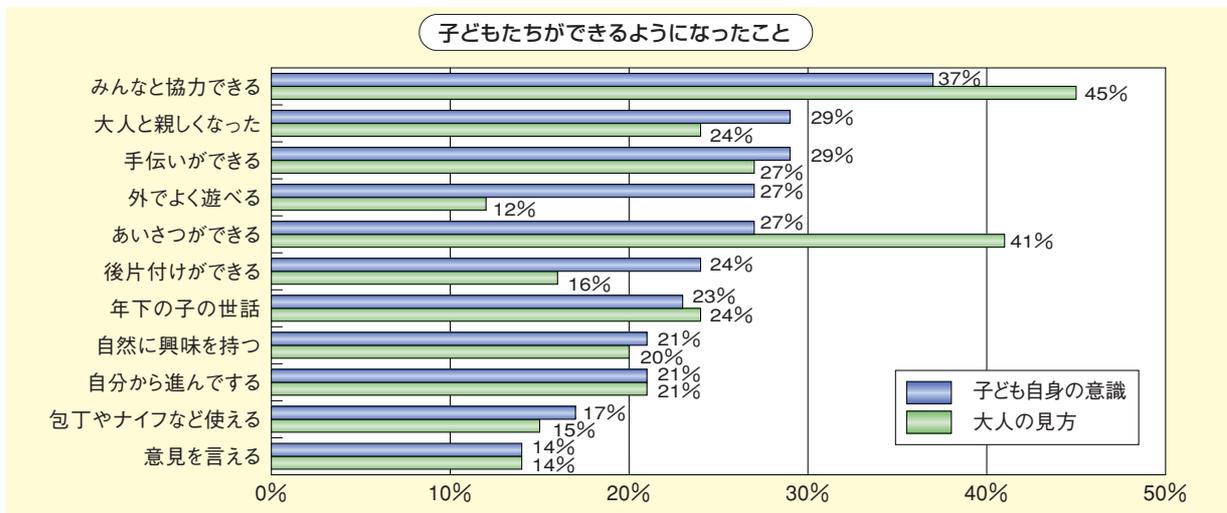
さわやか福祉財団は、「さわやか子ども広場」（文部科学省地域子ども教室推進事業受託）を平成16年度から18年度まで10道県（18年度88団体）で展開してきました。その成果を検証するため、平成19年1月に参加した子どもや大人を対象にアンケートを実施しました。（回答数 子ども1,608人、大人792人）このアンケートから読み取れる成果の一部をご紹介します。

① 家庭や学校でなかなかできない地域での遊びが、子どもたちのわくわく体験になる

- ・子どもたちは、大人との遊びから学び覚えたこと
 - 「のこぎり、くわ・かま、小刀、包丁など道具の使い方」41%
 - 「ベーゴマ、グランドゴルフ、ロケットや紙飛行機、囲碁将棋など知らなかった遊び」33%
- ・高学年になると、地域の祭りなど伝統行事や地域のことをあげる子どもが多かった。

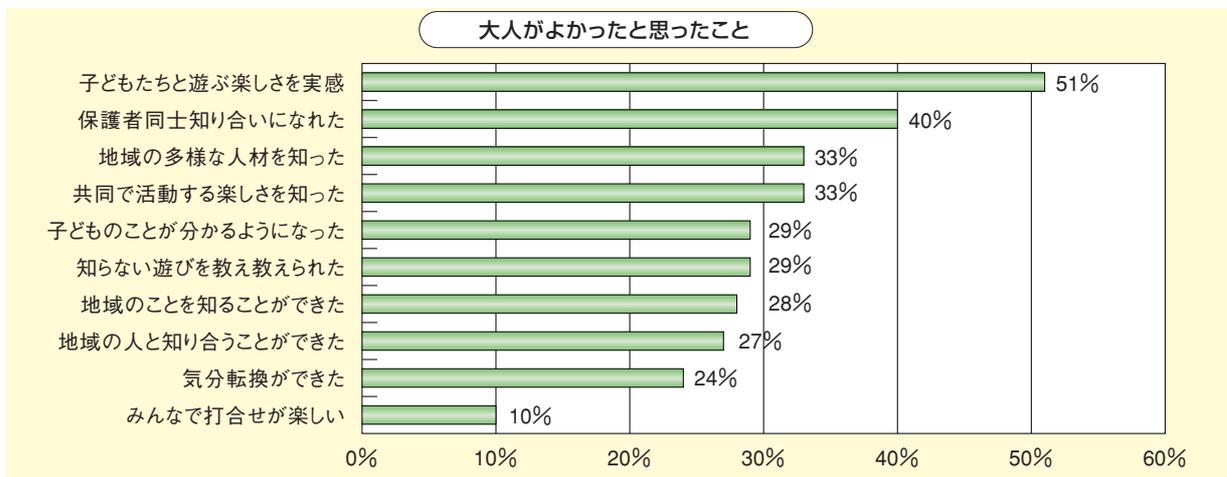
② 遊びを通じたふれあいから社会性が育まれ、回数が増えると次第に自主性が涵養される

- ・子どもたちが子ども広場に来て地域の大人や異学年の子どもと遊ぶことで、できるようになったこと
 - 「みんなと協力」37% 「大人と親しくなる」29% 「行事の手伝い」29% 「挨拶する」27%
- ・特に参加回数の多い子どもたちほどこれが顕著であり、さらに、「年下の子の世話」「自分から進んでする」「意見を言える」ようになったことを挙げている。
- ・同じ質問に対して、大人たちも、子どもたちの変化として同じ項目を挙げている。



③ 子どもたちとの遊び場は、大人にとっても楽しい地域交流の場だ

- ・参加した大人たち、スタッフ、保護者、地域の人たちが感じたこと
 - 「子どもたちと遊ぶ楽しさを実感できた」51%
 - 「保護者同士知り合えた」40%
 - 「地域の多様な人材を知った」33%
 - 「気分転換できた」30%



このパンフレットは競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて作成しています。